

[平成9年度共同研究報告]

## 四芸術大学体育・文化交歓会の推移

若山 博

### 《緒言・目的》

「四芸術大学体育・文化交歓会」、即ち、四芸祭の歴史は、昭和22年（1947）の金沢美術工芸大学と京都市立芸術大学の野球定期戦を端緒としている。四芸祭の前身である、昭和30年（1955）の第1回三美大祭から数えて、平成9年（1997：東京芸術大学主幹）の43回大会まで多くの歴史を積み重ねてきた。この交歓会に関する歴史とその変遷については、これまでに京都市立芸術大学の開学100年史や金沢美術工芸大学の開学50年史の中で僅かに触れられているにすぎない。

本研究の目的は、国公立芸術系大学の体育・文化交歓会として43回を重ねてきた「四芸祭」の歴史とその変遷を資料の収集と分析を通して、体育と文化の両分野から明らかにすることであった。

### 《方法》

本研究の資料分析にあたっては、平成8年11月に出版された「金沢美術工芸大学50年」及び大会パンフレットに基づき分析を進めた。なお、表1には四芸祭の開催日時および主幹校を示した。

### 《結果》

#### 1. 体育交歓会に関する推移

表2-1、2は四芸祭における体育交歓会の実施種目の推移を表したものである。第1回大会から第10回大会まで四芸祭の前身である三美大祭は、収集できた幾つかの大会パンフレットにおいて三美大学生体育交歓会の名称が残っているように、体育交歓を主

としたものであった。第1回大会では実施された2種目が異なる2週に分かれて実施されるという変則的な日程で行われた。

交歓会における採点対象となる種目に関しては、まず、第4回大会における運営委員会で「従来の準硬式野球、軟式テニス、卓球、バレーボールの4種目を正式種目とし、2大学が希望する種目はオープン種目として認める」ことが決定した。第1回の2種目から、第2回大会では4種目、更に順次回を重ねるごとに種目数は増加し、第9回から第13回までの期間が採点種目およびオープン種目を含めて最も多く、現在実施されている種目枠はほぼ決まっていたように思われる。

オープン種目は、第6回大会より大幅に増え、空手、相撲、ラグビー、軟式テニス、陸上競技、山岳に関しては、軟式テニスやラグビーのように2年の経過をみて正式種目に加わったものもあれば、第6回大会より第32回大会までいずれもオープン種目として行われてきた空手などもある。

体育交歓会に関する備品として、第2回大会からは金沢美術工芸大学より優勝盃が寄贈され、大会に花を添えた。第11回金沢大会に三美祭創世記の野球定期戦に思いをはせた金沢美術工芸大学野球部OBにより紫紺の大優勝旗が寄贈され、総合優勝賞として第32回大会まで各校の栄誉を讃えてきたが、現在は金沢美術工芸大学に保管されている。

以下に、(1)第12回大会、及び(2)第20回大会において改正された三美祭と(3)現在の四芸祭における採点種目に関する条項を抜粋、紹介する。

(1)第12回大会の三美大体育文化交歓会規約

第4章 競技種目、方法、期日

【第11条〔採点種目〕】

- ①準硬式野球②卓球（男女）③軟式テニス（男女）④バレーボール（男女）⑤バスケットボール（男女）⑥剣道⑦ラグビー⑧硬式テニス（男女）

- 10.ラグビー（男，女）  
11.ハンドボール  
12.柔道  
13.空手

【第12条〔オープン種目〕】

オープン種目に関しては運営委員会で決定し、その開催権は主催校がもつ。

オープン種目が3校そろった場合には、運営委員会が討議決定し、将来性のある種目には2年後に採点種目にすることができる。

(2)第20回大会改正の三美大体育文化交歓会規約

第4章 競技種目、方法、期日

【第11条〔採点種目〕】に関しては、1)に同じ

【第12条〔オープン種目〕】

オープン種目に関しては主催校で審議決定し、その開催権は主催校がもつ。以下2)に同じ

(3)現行の四芸術大学体育文化交歓会規約

第4章 競技種目、方法、期日

【第9条〔採点種目〕】

次の競技種目の中、開催大学指定期間までに3大学以上の参加申込のあったものを採点種目とする。なお、開催大学は、採点種目となった競技種目を、速やかに各大学に通知する。

- 1.準硬式野球
- 2.卓球（男，女）
- 3.バレーボール（男，女）
- 4.バスケットボール（男，女）
- 5.剣道（男，女）
- 6.硬式テニス（男，女）
- 7.サッカー（男）
- 8.バドミントン（男，女）
- 9.軟式テニス（男，女）

【第10条〔オープン種目〕】

前項の競技種目の中、採点種目にならなかったものをオープン種目とし、開催大学が決定する。

## 2.文化交歓会に関する推移

表3-1,2は四芸祭における文化交歓会の主な開催内容を表したものである。前述したように、第1回大会から第10回大会までの三美大祭の大会パンフレットの多くは、名称も三美大学生体育交歓会となっており、この時期の文化面での参加校相互の交流に関する資料はあまり残っていない。その中では、第2回大会の大会のレセプションにおいて、旧講堂（旧の金沢美術工芸大学校舎）に一升瓶を林立させて、行われた各大学各部の隠し芸大会、少数の女性をまじえてのダンスパーティーが盛況であったと記録に残っている。第4回大会までは大会レセプションが中心となっていたが、文化面での参加は第5回大会から合唱や軽音楽クラブなどが行われ始めた。

第10回大会以降から、文化面での各種イベントも軌道に乗り出し、各科別交流会、作品展、音楽祭典など毎回行われるようになっていった。現在行われている代表的な文化交流行事として挙げられる「第九の合同演奏会」は愛知県立芸術大学が正式メンバーとして主幹校の任を負った第28回大会から行われている。これは東京、京都、愛知のオーケストラ75名と合唱1044名からなる壮大なものとなり、大盛況であった。この大会よりパンフレットは四大学の委員が相互に情報交換を行い編集、作成することとなり、各大学の紹介や各種の特集記事などを掲載した内容豊富なものとなっていった。また、各大学から作品を公募して行われる四芸大賞展も、第31回大会より現在まで盛況に行われている。第30回大会以降、内容も多彩で文化面での催しものは増加する傾向が

窺える。

しかしながら、大会の本質的な内容に関して、第10回大会から第20回大会までの10年間に「スポーツ・文化の交流を通して学生のより深い相互発展を！」という大会テーマが明確に掲げられているのに対して、それ以降は第22回大会の「芸術大学の理念で探る」のほかに、この文化交歓会が果たすべき方向性を示した明確なテーマは、どの大会のパンフレットにも記載されていない。また、文化講演の演者に関しても、初期の「美術評論家」、「作家」から、近年はいわゆる「著名人」の招聘が多く、講演会自体の内容も大きく変化しているように感じられる。

なお、三美祭及び四芸祭における規約において、文化交歓会に関する実施要領等の詳細な条項は無く、過去に行われた代表的な交流行事や四大大学の四芸祭実行委員会によって検討された行事が行われてきた。

以下、第34回及び第42回金沢大会において実施された交流行事を抜粋、紹介する。

- 1.開会式 (美大正面玄関特設ステージ)
- 2.学生コンサート (美大正面玄関特設ステージ)
- 3.交流会 (美大正面玄関前)
- 4.四芸大賞展 (本館棟2階)
- 5.各種イベント (美大正面玄関特設ステージ)
  - ・「何でもレース」 ・「ねずみレース」
  - ・「料理の芸人」 ・「Game of STLESS」
  - ・「チャリティーオークション」
  - ・「地球でビンゴ」 ・「肉体美王決定戦」
  - ・「美術体験」
- 6.劇団べれゑ講演 (美大グランド特設会場)
- 7.合同オーケストラ (石川県文教会館ホール)
- 8.のっぽさん〔高見 映〕講演会 (美大ホール)
- 9.ダンスパーティー (Sound in 107 AZ)
- 10.ムーンライト晩餐会 (美大エントランスホール)

11.映画上映会 (視聴覚室)

12.オペラ (県女性会館)

※13.日仏芸術文化交流会 (美大ホール:第34回大会)

14.クロージングパーティー (美大メインストリート)

15.野点 (美大本部長校舎) ほか

おわりに

なお、本研究は平成9年度本学共同研究費に関わる研究であり、若山 博と高橋明彦の共同研究になるものである。ただし本稿は、高橋の協力を得つつも若山が単独で執筆したものであり、文責を明確にするため共同研究者はオーサーとして掲載しなかった。

表1 四芸祭の開催日時および主幹校

	開催日時	主幹校
1	昭和30年10月16～17日(1955) 10月25～27日(1955)	京都市立美術大学
2	昭和31年10月21～23日(1956)	金沢美術工芸大学
3	昭和32年5月25～26日(1957)	東京芸術大学
4	昭和33年10月11～12日(1958)	京都市立美術大学
5	昭和34年5月30～31日(1959)	金沢美術工芸大学
6	昭和35年5月28～29日(1960)	東京芸術大学
7	昭和36年5月19～21日(1961)	京都市立美術大学
8	昭和37年5月18～20日(1962)	金沢美術工芸大学
9	昭和38年5月31～6月2日(1963)	東京芸術大学
10	昭和39年5月29～31日(1964)	京都市立美術大学
11	昭和40年5月21～23日(1965)	金沢美術工芸大学
12	昭和41年5月26～29日(1966)	東京芸術大学
13	昭和42年5月25～28日(1967)	京都市立美術大学
14	昭和43年5月23～26日(1968)	金沢美術工芸大学
15	昭和44年5月22～25日(1969)	東京芸術大学
16	昭和45年5月20～24日(1970)	京都市立美術大学
17	昭和46年5月20～23日(1971)	金沢美術工芸大学
18	昭和47年5月28～31日(1972)	東京芸術大学
19	昭和48年5月27～30日(1973)	京都市立美術大学
20	昭和49年5月23～26日(1974)	金沢美術工芸大学

注) 第1回大会に関しては2種類の実施期間が異なる  
 10月16～17日：バレーボール  
 10月25～27日：準硬式野球

	開催日時	主幹校
21	昭和50年6月3～6日(1975)	東京芸術大学
22	昭和51年5月23～26日(1976)	京都市立芸術大学
23	昭和52年5月22～25日(1977)	金沢美術工芸大学
24	昭和53年6月5～8日(1978)	東京芸術大学
25	昭和54年5月27～30日(1979)	京都市立芸術大学
26	昭和55年5月25～28日(1980)	金沢美術工芸大学
27	昭和56年5月24～27日(1981)	東京芸術大学
28	昭和57年5月23～26日(1982)	愛知県立芸術大学
29	昭和58年5月22～25日(1983)	京都市立芸術大学
30	昭和59年5月27～30日(1984)	金沢美術工芸大学
31	昭和60年5月26～29日(1985)	東京芸術大学
32	昭和61年5月22～25日(1986)	愛知県立芸術大学
33	昭和62年5月24～27日(1987)	京都市立芸術大学
34	昭和63年5月26～29日(1988)	金沢美術工芸大学
35	平成元年5月28～31日(1989)	東京芸術大学
36	平成2年5月24～27日(1990)	愛知県立芸術大学
37	平成3年5月26～29日(1991)	京都市立芸術大学
38	平成4年5月28～31日(1992)	金沢美術工芸大学
39	平成5年5月28～31日(1993)	東京芸術大学
40	平成6年5月27～30日(1994)	愛知県立芸術大学
41	平成7年5月26～29日(1995)	京都市立芸術大学
42	平成8年5月23～26日(1996)	金沢美術工芸大学
43	平成9年5月22～25日(1997)	東京芸術大学

表2-1 体育交歓会の実施種目の変遷

昭和30年(1955)～昭和39年(1964)

1回	準硬式野球, バレーボール
2回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス
3回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球
4回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球
5回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球(バスケットボール男)
6回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球(バスケットボール男, 空手, 相撲, ラグビー)
7回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール男(空手, 相撲)
8回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール男(空手)
9回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール男(空手, 硬式テニス, 剣道, 柔道, 相撲, ラグビー)
10回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール男, 剣道(空手, 硬式テニス, 柔道, 相撲)

昭和40年(1965)～昭和49年(1974)

11回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール男, 剣道(空手, 硬式テニス, 柔道)
12回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール男, 剣道 (空手, 硬式テニス, 柔道, 相撲, サッカー, ラグビー, 陸上競技)
13回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道 (空手, 硬式テニス, 相撲, サッカー, ラグビー, 陸上競技)
14回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道(空手, 硬式テニス, サッカー, ラグビー, 山岳)
15回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道(空手, 硬式テニス, サッカー, ラグビー)
16回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー(空手, 硬式テニス, サッカー, 山岳)
17回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー(空手, 硬式テニス, サッカー)
18回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, サッカー, 硬式テニス(空手)
19回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス(空手, サッカー)
20回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス(空手, サッカー)

注) ( ) の種目はオープン種目

表2-2 体育交歓会の実施種目の変遷

昭和50年(1975)～昭和59年(1984)

21回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー(バドミントン, 空手, アチェリー)
22回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン
23回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(空手, 柔道, ハンドボール, 山岳)
24回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(空手, 柔道)
25回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(空手, ハンドボール)
26回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(空手, ハンドボール, 山岳)
27回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン, 柔道, ハンドボール(空手)
28回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン
29回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(空手, 柔道)
30回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(空手)

昭和60年(1985)～平成6年(1994)

31回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(空手)
32回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(空手)
33回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン
34回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(ハンドボール)
35回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン
36回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン
37回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン
38回	準硬式野球, バレーボール, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン(軟式テニス)
39回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン
40回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン

平成7年(1995)～平成9年(1997)

41回	準硬式野球, バレーボール, 軟式テニス, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン
42回	準硬式野球, バレーボール, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン
43回	準硬式野球, バレーボール, 卓球, バスケットボール, 剣道, ラグビー, 硬式テニス, サッカー, バドミントン

注) ( ) の種目はオープン種目

表3-1 文化交歓会における主な開催内容

昭和40年(1965)～昭和49年(1974)

11回	文化交流会会議「三美大学の文化状況と三美大文化交流会のこれからのあり方」 金沢美大新聞特集号に「三美大」を取り上げている。
12回	・三美大新聞の創刊
13回	テーマ「スポーツと文化の交流を通して学生のより深い相互発展を求めよう」 サブテーマ「現代における創造性とは何か」 ①シンポジウム「社会における美術の役割」「伝統における想像制とは何か」「日本文化の独自性とは何か」 ②文化講演：永井 潔（油画家・一水会会員）
14回	テーマ「スポーツと文化の交流を通して学生のより深い相互発展を求めよう」 ①文化講演：中原佑介「現代美術の動向」 ②文化会議：「我々の創造と課題」
16回	テーマ「スポーツ・文化交流の中により深い相互発展を！」 サブテーマ「創造性の背景にあるもの」→パネルディスカッション ①問題別シンポジウム：「芸術大学を考える」 ②各科別交流会，音楽祭典，写真展，映画上映 ほか
17回	テーマ「スポーツ・文化交流の中により深い相互発展を！」 ①パネルディスカッション：箕田源二郎「現代における芸術家、デザイナーの意義」 ②バスツアー（古丸谷めぐり），映画上映，各科別交流会，音楽祭典ほか
18回	テーマ「スポーツ、文化の交流を通して学生のより深い相互発展と連帯を」 ①文化講演：坂崎乙郎「デューラーとドイツルネッサンス」
19回	テーマ「スポーツ、文化の交流を通して学生のより深い相互発展と連帯を！」 ①三美大祭規定の改定案 ②パネルディスカッション：「ピカソ」 ③問題別シンポジウム：「芸術の機能が居拠するもの」，「原始美術」，「美術学生の進路」 ④バスハイク，運動会（一般参加者が対象）ほか
20回	テーマ「スポーツ、文化の交流を通して学生のより深い相互発展と連帯を！」 ①文化講演：須上計一（油画家）「現代美術の抵抗画家」 ②映画上映，各科別交流会，音楽祭典，写真展ほか ③ハイキング，バスツアー（古丸谷・友禅）ほか

昭和50年(1975)～昭和59年(1984)

22回	テーマ「芸術大学の理念で探る」 ①文化講演：堀内正和（彫刻家）「彫刻と僕」，石本 正（日本画家），梅原 猛（哲学）「私の発想法」， 木村重信（美術学）「これからの芸術世界」 ②オリエンテーリング，舞踏（前田正樹）ほか
24回	①パネルディスカッション：黒川威人「芸術家に何ができるか」，嵐 一夫「九谷の世界」， 藤本徳明「不思議の国アリスー北国の文化風土にみる女性像」 ②バスツアー（古丸谷・友禅），運動会ほか
25回	①文化講演：梅原 猛（哲学）「芸術と人生」 ②ダンスパーティ，バスハイク ほか

表3-2 文化交歓会における主な開催内容

昭和50年(1975)～昭和59年(1984)

26回	①四芸祭規約 ②文化講演：五木寛之（作家）「同時代の視想」、中原佑介（美術評論家）「現代美術の流れ」 ③バスツアー（伝統工芸コース）ほか
27回	①文化講演：小泉文夫 ②バスツアー（古九谷・友禅），運動会ほか
28回	・バスツアー（瀬戸陶磁器資料館，明治村），合同オーケストラ，ミュージカル（ターキー），第9コンサート ほか
29回	・文化講演：梅原 猛
30回	・文化講演：モンキーパンチ（漫画家）

昭和60年(1975)～平成6年(1994)

31回	・文化講演：観世栄夫（雅楽演奏会）
34回	①日仏芸術文化交歓会・シンポジウム「現代と芸術」 ②四芸大賞展，四芸祭パレード ほか
35回	・文化講演：大岡 信（評論家・作家）「詩・芸術における共同製作について」
36回	①四芸祭10周年 ②文化講演：鯉江良二（陶芸作家）
37回	①文化講演：石井幹子（照明デザイナー） ②オペラ「蝶々夫人」 ほか
38回	①文化講演：前本彰子（油画家） ②チャリティーバザー ほか
39回	①文化講演：舟越 桂（漫画家） ②リサイクルフリーマーケット ほか
40回	テーマ「初恋. 愛と芸術の織り成す美の祭典」 ・文化講演：中松義郎（発明家）

平成7年(1995)～平成9年(1997)

41回	テーマ「ポーズ. ああ、今僕たちは強く、たくましく、そしてしなやかに『四芸祭』という若き青春の扉をひらこうとしている」 ・文化講演：有上じゅんじ（ミュージシャン）
42回	・文化講演：高見 映（のっぽさん）

（わかやま ひろし）  
（平成10年10月30日受理）